



44

2162
9/24/02
RH

Practitioner's Docket No. 47793/57534

PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of: Takashi NARA, et al.

Application No.: 10/087,329

Group No.: 2162

Filed: March 1, 2002

Examiner: Not Yet Known

For: FITNESS TOOL, POINT-GIVING SERVER, POINT-GIVING SYSTEM, POINT-GIVING METHOD AND PROGRAM

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

TRANSMITTAL OF CERTIFIED COPIES

Attached please find the certified copy(ies) of the foreign applications from which priority is claimed for this case:

- 1) Country: Japan
Application Number: 2001-059852
Filing Date: March 5, 2001
- 2) Country: Japan
Application Number: 2001-286645
Filing Date: September 20, 2001

RECEIVED
JUN 18 2002
Technology Center 2100

WARNING: "When a document that is required by statute to be certified must be filed, a copy, including a photocopy or facsimile transmission of the certification is not acceptable." 37 C.F.R. section 1.4(f) (emphasis added).

CERTIFICATE OF MAILING (37 C.F.R. SECTION 1.8a)

I hereby certify that this paper (along with any paper referred to as being attached or enclosed) is being deposited with the United States Postal Service on the date shown below with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to the Commissioner for Patents, Washington, D.C. 20231.

Date: June 1, 2002

Donna R. Davis

(type or print name of person mailing paper)

Signature of person mailing paper


SIGNATURE OF PRACTITIONER

Reg. No.: 36,984

John I. Penny, Jr.

(type or print name of practitioner)

Tel. No.: (617) 439-4444

EDWARDS & ANGELL, LLP

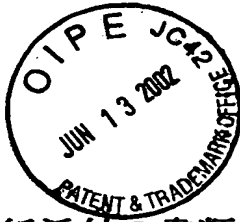
P.O. Box 9169

Boston, Massachusetts 02209

Customer No.: 21874

NOTE: "The claim to priority need be in no special form and may be made by the attorney or agent, if the foreign application is referred to in the oath or declaration, as required by section 1.63." 37 C.F.R. section 1.55(a).

BOS2_303376.1



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 3月 5日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-059852

[ST.10/C]:

[JP2001-059852]

出 願 人

Applicant(s):

コナミ株式会社

RECEIVED

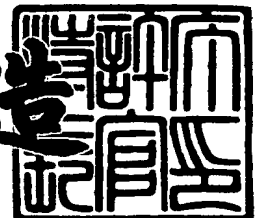
JUN 18 2002

Technology Center 2100

2002年 3月29日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3021336

【書類名】 特許願

【整理番号】 P1036

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 コナミ株式会社内

 【氏名】 奈良 隆志

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 コナミ株式会社内

 【氏名】 近藤 好範

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 コナミ株式会社内

 【氏名】 福地 雄士

【特許出願人】

 【識別番号】 000105637

 【住所又は居所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号

 【氏名又は名称】 コナミ株式会社

 【代表者】 上月 景彦

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 042941

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ポイントシステム及び健康器具

【特許請求の範囲】

【請求項1】

健康器具を使用して運動を行うことによりポイントをためることができるポイントシステムであって、

個々の製品ごとに異なる固有の番号が付与され、所定回数の運動を行うことによりパスワードを出力する健康器具と、

少なくとも前記パスワードと前記健康器具固有の番号とポイントシステムの会員番号とが入力されて、少なくとも入力されたパスワードが正しいか否かの認証を行う管理サーバとを有し、

前記管理サーバに入力された前記パスワードが正しい場合には、前記管理サーバに入力された前記ポイントシステムの会員番号に対応するポイントを、前記パスワードに対応するポイント数だけ増加させるよう、前記ポイントシステムのポイント数を管理するポイント管理サーバに指示するように構成したことを特徴とするポイントシステム。

【請求項2】

前記健康器具固有の番号は、少なくとも個々の製品ごとに異なる番号と、この個々の製品ごとに異なる番号を暗号化したデータ列とを含み、

前記管理サーバでは、個々の製品ごとに異なる番号と、この個々の製品ごとに異なる番号を暗号化したデータ列との対応関係が正しいか否かの認証をさらに行うことを特徴とする請求項1に記載のポイントシステム。

【請求項3】

ユーザが使用することにより運動を行わせる健康器具であって、

ユーザの運動動作の回数が入力される入力手段と、

前記入力手段に入力された回数を計数する計測手段と、

所定の入力回数と所定のパスワードとを記憶している記憶手段と、

前記計測手段により計数された入力回数と前記記憶手段に記憶されている前記所定の入力回数とを比較する判定手段と、

少なくとも前記入力手段による入力回数を表示する表示部とを有し、

前記入力手段による入力回数が前記所定回数になったときに、前記表示部に前記パスワードを表示するようにしたことを特徴とする健康器具。

【請求項4】

前記記憶手段は、複数種類の所定回数と複数種類のパスワードとを記憶しており、それぞれの所定回数に対応した異なるパスワードを表示するようにしたことを特徴とする請求項3に記載の健康器具。

【請求項5】

前記記憶手段に記憶されるパスワードは、本体固有の番号に基づいて生成されることを特徴とする請求項3または請求項4に記載の健康器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、運動を行うことにより航空会社のマイレージをためたり、クレジットカードのポイントをためたりすることができるポイントシステム及び健康器具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

各航空会社では、飛行距離に応じたポイントを与え、その与えられたポイント数の合計により航空券や商品を得ることができるマイレージシステムを提供している。このマイレージシステムによるポイントをためるには、まずその航空会社のマイレージバンクの会員になり、その航空会社の航空券を購入した際もしくは、飛行機に乗る際に、その航空会社のマイレージバンクの会員であることを申請することにより、搭乗する飛行機の飛行距離に対応したポイントをためることができる。

【0003】

また、クレジットカードには、クレジットカードを使用して買い物をしたときに金額に応じたポイントがたまり、ポイント数に応じた商品を顧客に提供するポイントシステムがある。

【0004】

一方、最近の健康への意識の高まりから多くの種類の家庭用健康器具が販売されているが、特に単調な運動を繰り返す健康器具では、すぐに飽きてしまい、運動が長続きしないという問題点があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

家庭内で手軽に運動のできる家庭用の健康器具は、健康維持に非常に有用であるが、単調な運動により飽きてしまい、健康器具を使用して運動を行わなければ、結局意味をなさないものになる。

【0006】

また、マイレージポイントをためたり、クレジットカードポイントをためたりするには、航空券を購入したり、クレジットカードを使用して商品を購入したりしなければならず、多くのポイントをためるには、多くのお金を使用する以外に方法はなかった。

【0007】

そこで、本発明は運動をするだけでお金を使用せずに楽しくポイントをためることができるポイントシステム及び健康器具を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するための手段として、以下に示す構成を提供しようとするものである。

1. 健康器具を使用して運動を行うことによりポイントをためることができるポイントシステムであって、個々の製品ごとに異なる固有の番号が付与され、所定回数の運動を行うことによりパスワードを出力する健康器具と、少なくとも前記パスワードと前記健康器具固有の番号とポイントシステムの会員番号とが入力されて、少なくとも入力されたパスワードが正しいか否かの認証を行う管理サーバとを有し、前記管理サーバに入力された前記パスワードが正しい場合には、前記管理サーバに入力された前記ポイントシステムの会員番号に対応するポイントを、前記パスワードに対応するポイント数だけ増加させるよう、前記ポイントシ

システムのポイント数を管理するポイント管理サーバに指示するように構成したことを特徴とするポイントシステム。

【0009】

2. 前記健康器具固有の番号は、少なくとも個々の製品ごとに異なる番号と、この個々の製品ごとに異なる番号を暗号化したデータ列とを含み、前記管理サーバでは、個々の製品ごとに異なる番号と、この個々の製品ごとに異なる番号を暗号化したデータ列との対応関係が正しいか否かの認証をさらに行うことを特徴とする請求項1に記載のポイントシステム。

【0010】

3. ユーザが使用することにより運動を行わせる健康器具であって、ユーザの運動動作の回数が入力される入力手段と、前記入力手段に入力された回数を計数する計測手段と、所定の入力回数と所定のパスワードとを記憶している記憶手段と、前記計測手段により計数された入力回数と前記記憶手段に記憶されている前記所定の入力回数とを比較する判定手段と、少なくとも前記入力手段による入力回数を表示する表示部とを有し、前記入力手段による入力回数が前記所定回数になったときに、前記表示部に前記パスワードを表示するようにしたことを特徴とする健康器具。

【0011】

4. 前記記憶手段は、複数種類の所定回数と複数種類のパスワードとを記憶しており、それぞれの所定回数に対応して異なるパスワードを表示するようにしたことを特徴とする請求項3に記載の健康器具。

【0012】

5. 前記記憶手段に記憶されるパスワードは、本体固有の番号に基づいて生成されることを特徴とする請求項3または請求項4に記載の健康器具。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明のポイントシステム及び健康器具の一実施の形態について、図面と共に詳細に説明する。図1は本発明のポイントシステムの一実施の形態の概要を説明するための構成図、図2は本発明のポイントシステムの一実施の形態の手

順を説明するためのフローチャート図、図3は本発明の健康器具の一実施の形態の概観を示す概観図、図4は本発明の健康器具の一実施の形態の内部構成を説明するためのブロック図、図5はユーザが申請を行う際の画面の例を示す模式図、図6はシリアル番号、プロダクトID、パスワードの例を説明するための図、図7は管理サーバにおける認証処理手順の例を説明するためのフローチャート図である。

【0014】

まず、本発明にかかる健康器具の一実施の形態について図3及び図4を参照しながら説明する。

本発明で使用される健康器具は、主として家庭内で用いられる運動器具であり、例えば、ステッパー、ダンベル、ツイスター、縄跳び用のロープ、ホッピング、バイク、ウォーカーなどと呼ばれる運動器具、歩数計（万歩計）などの運動回数を計測する計測器、体を使ってゲームを行うパーティーゲームなどが含まれる。

【0015】

そして、図4に示すように、ユーザがこれらの健康器具1を使用して運動を行うと、そのユーザの運動動作の回数が入力手段11に入力される。そして、この入力手段11に入力された運動動作の回数は、計測手段12により計数されて、表示部15に表示される。このことにより、ユーザは現在の運動回数を知ることができる。

【0016】

また、健康器具1は、所定の入力回数と所定のパスワードとを記憶している記憶手段13と、計測手段12により計数された入力回数と記憶手段13に記憶されている所定の入力回数とが入力され、これらの回数を比較する判定手段14を備えている。そして、判定手段14は入力手段11による入力回数が所定回数になったときに、記憶手段13に記憶されているパスワードを読み出して表示部15に表示する。

【0017】

健康器具1として歩数計を使用した場合のパスワードの表示例を図3に示す。

同図では、「マイレージチャンス」という表示と共に6桁のパスワード「123456」を表示して、このパスワードがマイレージポイントをためるのに使用できることをユーザに示している。

【0018】

このように構成することにより、ユーザは健康器具を使用して運動を行い、所定回数（例えば1万回）の運動を行うと、表示部15にパスワードが表示されることになる。そして、このパスワードは、所定回数の運動を行ったことを証明するものである。

【0019】

なお、表示されるパスワードは、同じ種類の製品では同じパスワードを表示するようにしても良いが、製造番号などの本体固有の番号に基づいて生成するようにしてもよい。この場合、記憶手段13には本体固有の番号に基づいて生成されたパスワードを記憶しておいても良いし、生成の元となる本体固有の番号と暗号化プログラムとを記憶しておき、暗号化プログラムにより生成されたパスワードを表示するようにしても良い。

【0020】

また、記憶手段13に、複数種類の所定回数とこれにそれぞれ対応する複数種類のパスワードを記憶（または生成可能に）しておき、入力手段により入力される入力回数に応じて異なるパスワードを表示するようにしても良い。図3に示す歩数計の場合を例にとって説明すると、10万歩ごとに異なるパスワードを表示し、地球一周分歩くとスペシャルなパスワードを表示するなどしても良い。そして、後述するポイントシステムにおいて、パスワードごとに異なるポイント（例えば歩数が多いほど大きなポイント）を与えるようにしても良い。

【0021】

さらに、健康器具1がTVモニタ（図示せず）に接続して使用する種類のものである場合には、表示部を備えていなくても良く、運動回数やパスワードを健康器具1から出力してTVモニタに表示するようにしても良い。

【0022】

次に、本発明のポイントシステムについて、図1、図2を中心に説明する。な

お、ここでは、航空会社で提供されているマイレージシステムのポイントをためるようなシステムで説明するが、クレジットカード会社で提供されているカードポイントをためる場合であっても、図1及び図2とその説明中の「航空会社」、「マイレージ」がそれぞれ「カード会社」、「カードポイント」に変更されるだけで、システムそのものは同様にして実現することができる。

【0023】

まず、ユーザ3はお店（通信販売やオンラインショッピングでも可）2から当該商品10を購入する（ステップ101）。この商品には、商品分類番号21と製造番号22とからなるシリアル番号23が付与された健康器具（本体）1、取扱説明書31、マイレージバンク会員申込書32、保証書33が同梱されている。そして保証書33には、シリアル番号23の他に、製品ごとに異なる数字列（または英数字列や英数字記号列）24とこの数字列24を暗号化した暗号化データ列25とからなるプロダクトID26が記載されている。このプロダクトID26または数字列24もしくは暗号化データ列25をシールもしくは銀コートなどにより、購入後にユーザが剥がすまでは見えないようにしておいても良い。また、製品ごとに異なる数字列24は製造番号22と同じ番号でも良い。（図6参照）

【0024】

そして、ユーザ3は、マイレージバンク会員申込書32に所定事項を記入して航空会社5に送付する（ステップ102）。航空会社5では、マイレージバンク会員申込書32の記載内容に基づいてマイレージバンク会員登録を行い（ステップ103）、マイレージバンク会員番号（マイレージバンク会員証）を発行してユーザ3に送付する（ステップ104）。なお、このマイレージバンク会員申込書32は通常に航空会社5で使用されているものと同じものであり、ユーザ3がすでにその航空会社5のマイレージバンク会員となっている場合には、この申し込み（ステップ102～104）は不要である。

【0025】

さて、ユーザ3は、健康器具1を使用して運動を行い（ステップ105）、所定回数の運動を行うと（ステップ106→Yes）、パスワードを得ることができる（ステップ107）。

【0026】

ユーザは、得られたパスワードをサービス提供企業4に連絡することで申請を行う（ステップ108）。連絡方法は、電話、郵送、FAX、電子メールなどで受け付けても良いし、サービス提供企業4が運営しているホームページで受け付けても良い。さらに、サービス提供企業4が航空会社5に委託して、航空会社5が実際の受付業務を行っても良い。航空会社5が実際の受付業務を行う場合は、後述する管理サーバ40及びオペレータ6が航空会社5内に存在することになるだけで、基本的な構成は同じである。以下、サービス提供会社4が電話により受付を行うものとして説明する。

【0027】

ユーザ3はサービス提供企業4の受付電話番号へ電話をし、自動受付システムもしくはオペレータ6に少なくとも以下の事項を伝える。

- (1) マイレージバンク会員番号（航空会社5から連絡済み）
- (2) シリアル番号23（健康器具1及び保証書33に記載）
- (3) プロダクトID26（保証書33に記載）
- (4) パスワード（所定回数の運動により表示）
- (5) 氏名、電話番号等（ユーザ3に連絡する必要が出たときに使用するため

)

【0028】

オペレータ6は、サービス提供企業4内の管理サーバ40のキーボードや音声入力装置などの入力操作部41を操作して、(1)～(6)の事項を入力する。なお、郵送、FAXなどで受け付けた場合も同様にして、入力操作部41の操作により、(1)～(6)の事項を入力し、電子メールやホームページで受け付ける場合は、自動的に入力するように管理サーバ40を構成しても良い。この場合、入力操作部41は電子メール受付システムやホームページサーバが相当することになる。また、ホームページで受け付ける場合の受付画面例を図5に示す。

【0029】

管理サーバ40は、入力操作部41、処理を行うCPU42、処理のために必要なデータを一時的に記憶するRAM43、管理サーバ40の基本的な動作に必要な

プログラムが記憶されているROM44、受付業務に必要な全てのプログラム及びデータベースと過去の受付記録が保存されているハードディスクドライブ(HDD)45、入力操作部41による入力内容や受付処理結果などをオペレータ6に知らせるための表示部46とを備えている。

【0030】

そして、管理サーバ40は、入力された各データをHDD45に記録した後(ステップ109)、認証処理を行う(ステップ110)。ここで、管理サーバ40における認証処理の例について図7を参照しながら説明する。まず、HDD45内のデータベースを参照してパスワードの正当性(ステップ201)とシリアル番号23が当該健康器具1のシリアル番号23として使用されていた番号の範囲内にあるかを確認する(ステップ203)。次に、過去の記録を参照して同じシリアル番号23が既に受け付けられていないかをチェックする(ステップ205)。ここで、パスワードが違う、シリアル番号23が異なるもしくは既に受け付けたシリアル番号23である場合には、そのことをユーザ3に告知し、ユーザ3からの番号等の言い間違いの修正が無い場合には(ステップ202、204、206→No)、受付できない旨をユーザ3に知らせて処理を終了する(ステップ209)。

【0031】

これらのデータが問題ない場合には、プロダクトID26の認証を行う(ステップ207)。前述したように、プロダクトID26は製品ごとに異なる数字列(または英数字列)24とこの数字列24を暗号化した暗号化データ列25とから構成されているので、受け付けたプロダクトID26の数字列24をHDD45に記憶されているプログラムにより暗号化して、得られたデータ列が受け付けたプロダクトID26に含まれる暗号化データ列25と一致していれば、商品10を購入した正規のユーザ3であることを確認することができる。そして、一致していない場合にはユーザ3からの番号等の言い間違いがないかを確認した上で(ステップ208)、受付できない旨をユーザ3に知らせて処理を終了する(ステップ209)。

【0032】

また、一致した場合には、マイレージポイント増加の受け付けができたことをユーザに知らせて受け付け処理を終了する（ステップ210）。なお、ここでは管理サーバ40においてプログラムにより数字列24を暗号化して暗号化データ列を生成して照合（認証）しているが、HDD45のデータベース内に数字列24と対応させて暗号化データ列も記憶しておき、このHDD45のデータベース内に記憶された暗号化データ列と受け付けた暗号化データ列25とを照合するようにしても良い。

【0033】

さらに、ここでは、マイレージバンク会員番号の照合を行っていないが、航空会社5で受け付ける場合や航空会社5のマイレージ管理システム51の顧客データベースが照会可能であれば、ユーザ3から受け付けたマイレージバンク会員番号の照合も行うようにしても良い。

【0034】

なお、サービス提供企業4で受け付ける場合は、航空会社5のマイレージ管理システム51の顧客データベースを照会することが難しい場合があり、また、マイレージ管理システム51のデータベースの必要部分をサービス提供企業4に提供してもらう場合でも更新に時間がかかるので、リアルタイムでの正確な照合が困難である。しかしながら、プロダクトID26の照合により、製品10の正規ユーザであることが確認できるので、本実施の形態のようにマイレージバンク会員番号の照合を行わなくても、問題は生じない。すなわち、マイレージバンク会員番号が不正または間違っている場合、マイレージをためることができないだけであり、その場合はあとから（受付時に聞いた氏名、電話番号に）連絡して、正しいマイレージバンク会員番号を聞くまたはマイレージをためることができなかった旨の連絡をするなどにより、対処可能である。

【0035】

正規に受付終了した後は、マイレージバンク会員番号とパスワードに対応して得られるマイレージ増加ポイント数を航空会社5に送信し、航空会社5のマイレージ管理システム51で管理しているマイレージポイントを増加させる（ステップ111）。送信方法としては、オンラインによるリアルタイムまたはバッチ処

理結果の送信を行う他に、FD、CD-R、Moなどの記録媒体に記録して送るようにしても良い。そして、このデータは、企業間で送受信されるお金に関するデータであるので、セキュリティーにも気をつける必要がある。したがって、送信方法の種類によって、適切な方法（暗号化する、証明書データを含めて送信するなど）を講じた上で送信するようにする。

【0036】

以上で、ポイントシステムの処理は終了であるが、増加したマイレージポイントもしくはトータルのマイレージポイントをユーザ3に連絡する処理は、通常のマイレージ管理システム51で行っている処理に含めて行えば良い。

【0037】

また、増加させたマイレージポイントに対応する費用をサービス提供企業4が負担する場合は、航空会社5がサービス提供企業4から受け取ったマイレージポイント数に対応する費用をサービス提供企業4に請求するか、サービス提供企業4から自動的に送金するようにする。いずれの場合でも、サービス提供企業4と航空会社5の両方にマイレージポイント数に関するデータがあるので、それらを照合することで、費用負担に関する処理を明確に処理することができる。そして、サービス提供企業4は、商品10を販売した利益の中からマイレージポイント費用を捻出すれば良い。

【0038】

以上説明したように、本発明のポイントシステムでは、ユーザ3は購入した健康器具1を使用して運動を行うだけで新たな費用を発生させることなく、航空会社のマイレージポイントやクレジットカード会社のカードポイントをためることができる。

【0039】

そして、ポイントをためるために健康器具1を使用することで、目標を持って継続的に運動することになり、健康の増進を図ることができる。

また、サービス提供企業4は、本発明のポイントシステムを利用して、商品10の販売宣伝活動を行うことができ、商品の販売拡大を見込むことができる。

さらに、航空会社5は、マイレージバンク会員申込書を商品に同梱し、また、

マイレージをためる手段が健康器具にまで拡大されることにより、自社のマイレージバンク会員の増加、ひいては航空機の利用増加を見込むことができ、利益の拡大に貢献することができる。

【0040】

なお、本発明のシステムでは、何らかの方法により、パスワードが商品を購入した正規のユーザ以外に知られたとしても、マイレージ受付時にプロダクトIDの照合を行っているので、正規のユーザ以外はマイレージを取得することはできない。さらに、シリアル番号も併用して確認することで、出荷した製品数以上のユーザ数のマイレージを取得されることは不可能となり、悪意のある人に対してサービス提供企業やユーザが被害を被ることを防止することができる。

【0041】

そして、パスワードを製造番号（またはシリアル番号）を暗号化したものとした場合には、パスワードと製造番号（またはシリアル番号）とだけで認証を行うことができるので、プロダクトIDが無くても正規のユーザ確認を行うことができ、悪意のある人に対してサービス提供企業やユーザが被害を被ることを防止することができる。

【0042】

【発明の効果】

本発明のポイントシステムは、健康器具を使用して所定回数の運動を行うことにより出力されるパスワードにより、対応するポイント数を増加させることができるので、ユーザはお金を払わずにポイントをためることができる。

また、目標を持って継続的に運動を行うことができるので、健康維持に非常に有用なシステムである。

【0043】

さらに、管理サーバにおいて、個々の製品ごとに異なる番号と、この個々の製品ごとに異なる番号を暗号化したデータ列との対応関係が正しいか否かの認証をさらに行う場合は、よりセキュリティの高いシステムになり、不正を高い確率で防止することができる。

【0044】

本発明の健康器具は、所定回数の入力によりパスワードを表示するように構成したので、目標を持って継続的に運動を行うことができ、健康維持に効果的に貢献することができる。

【0045】

さらに、本発明の健康器具において、それぞれの所定回数に対応した異なるパスワードを表示するようにした場合には、それぞれの所定回数ごとに目標を持って継続的に運動を行うことができ、さらなる健康維持に効果的に貢献することができる。

【0046】

そして、本体固有の番号に基づいてパスワードを生成する場合は、パスワードが盗まれても他の製品では使用できないので、セキュリティーの高いパスワードにすることができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明のポイントシステムの一実施の形態の概要を説明するための構成図である。

【図2】

本発明のポイントシステムの一実施の形態の手順を説明するためのフローチャート図である。

【図3】

本発明の健康器具の一実施の形態の概観を示す概観図である。

【図4】

本発明の健康器具の一実施の形態の内部構成を説明するためのブロック図である。

【図5】

ユーザが申請を行う際の画面の例を示す模式図である。

【図6】

シリアル番号、プロダクトID、パスワードの例を説明するための図である。

【図7】

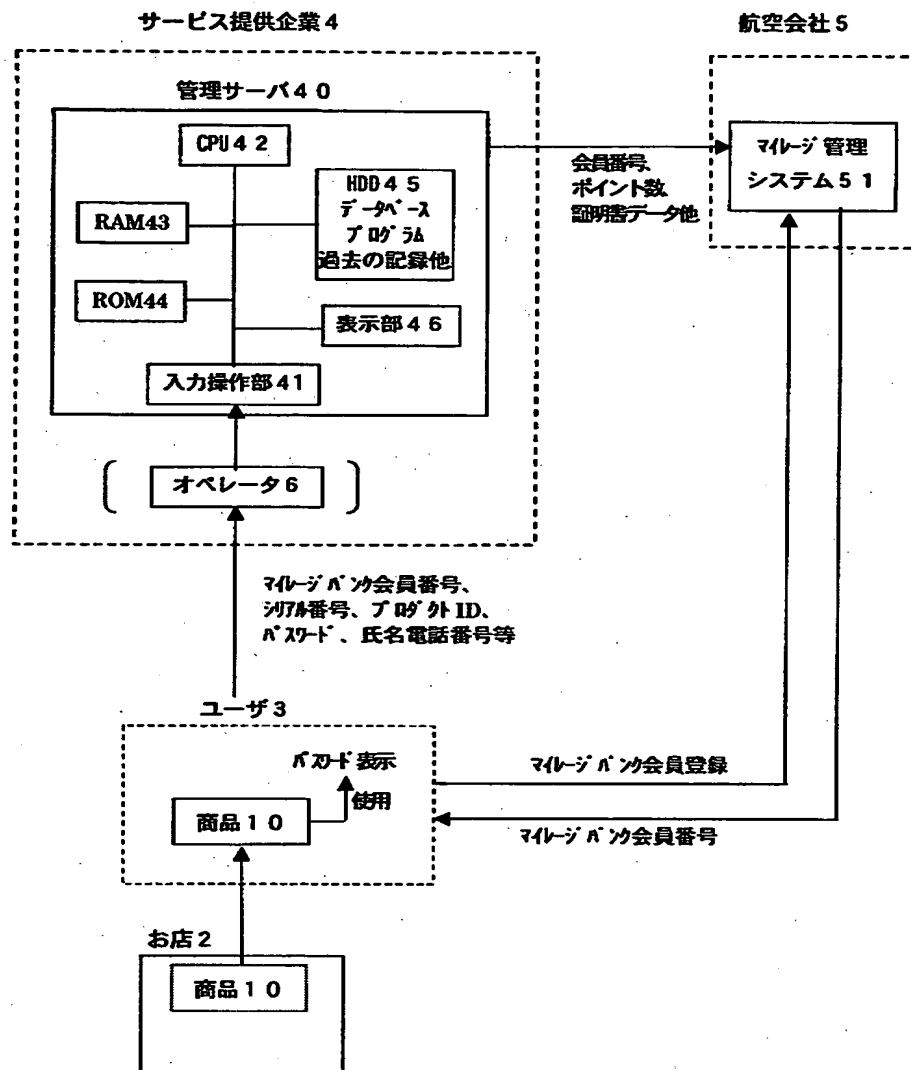
管理サーバにおける認証処理手順の例を説明するためのフローチャート図である。

【符号の説明】

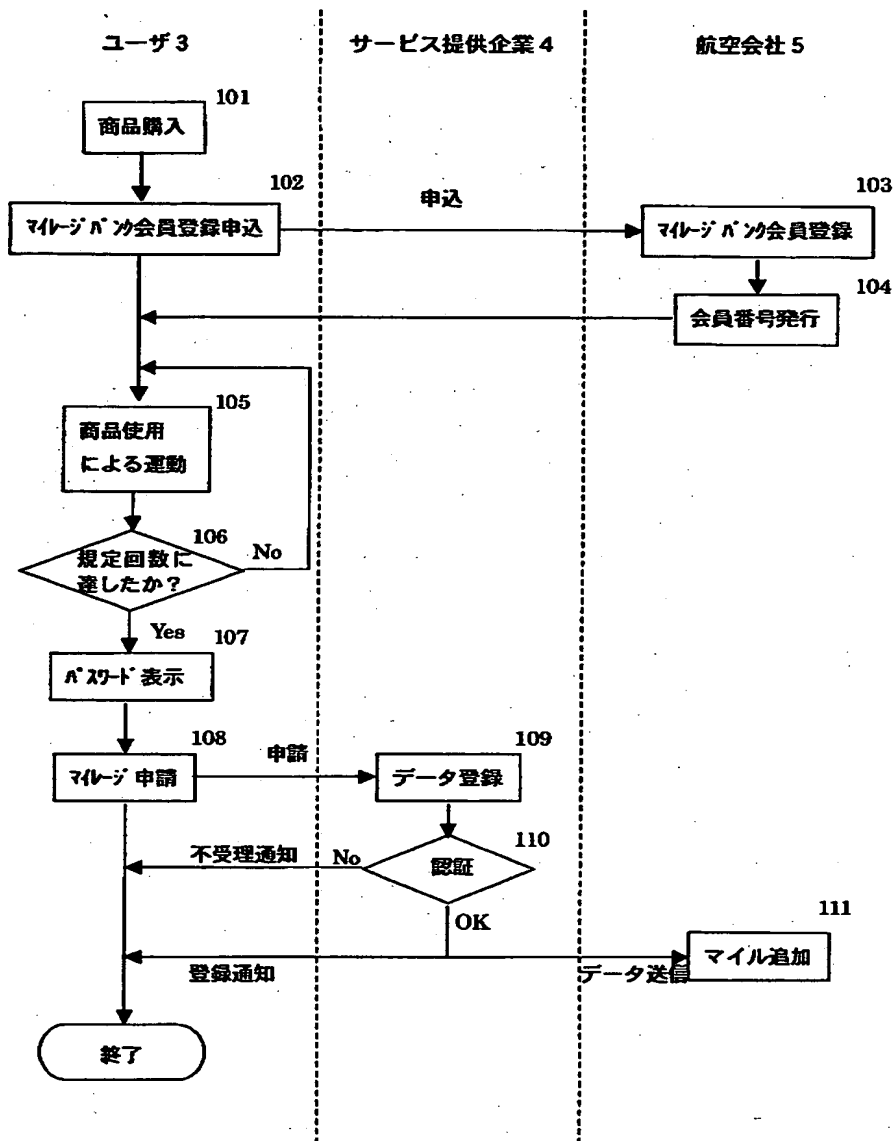
- 1 健康器具(本体)
- 2 お店
- 3 ユーザ
- 4 サービス提供企業
- 5 航空会社
- 6 オペレータ
- 10 商品
- 40 管理サーバ
- 51 マイレージ管理システム

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

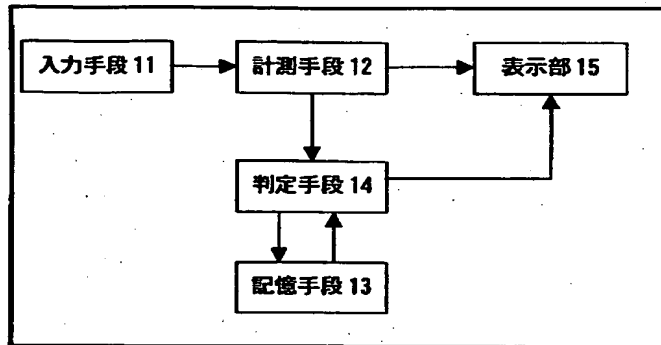


【図 3】



【図 4】

健康器具 1



【図 5】

入力画面の例

This figure shows an example of an input screen for a health device. It contains several input fields for user information:

- マイレージバンク会員番号 (Mileage Bank Member Number): A single-line text input field.
- シリアル番号 (Serial Number): Two separate input fields separated by a hyphen.
- プロダクトID (Product ID): Three separate input fields separated by hyphens.
- 氏名 (Name): A single-line text input field.
- 電話番号 (Phone Number): A single-line text input field.
- 電子メールアドレス (Email Address): A single-line text input field.

At the bottom of the screen, there is a button labeled 送信 (Send).

【図6】

シリアル番号 23

*** - * ***
 ↑ ↑
 商品分類番号 21 製造番号 22
 (商品ごとに異なる) (製品ごとに異なる)

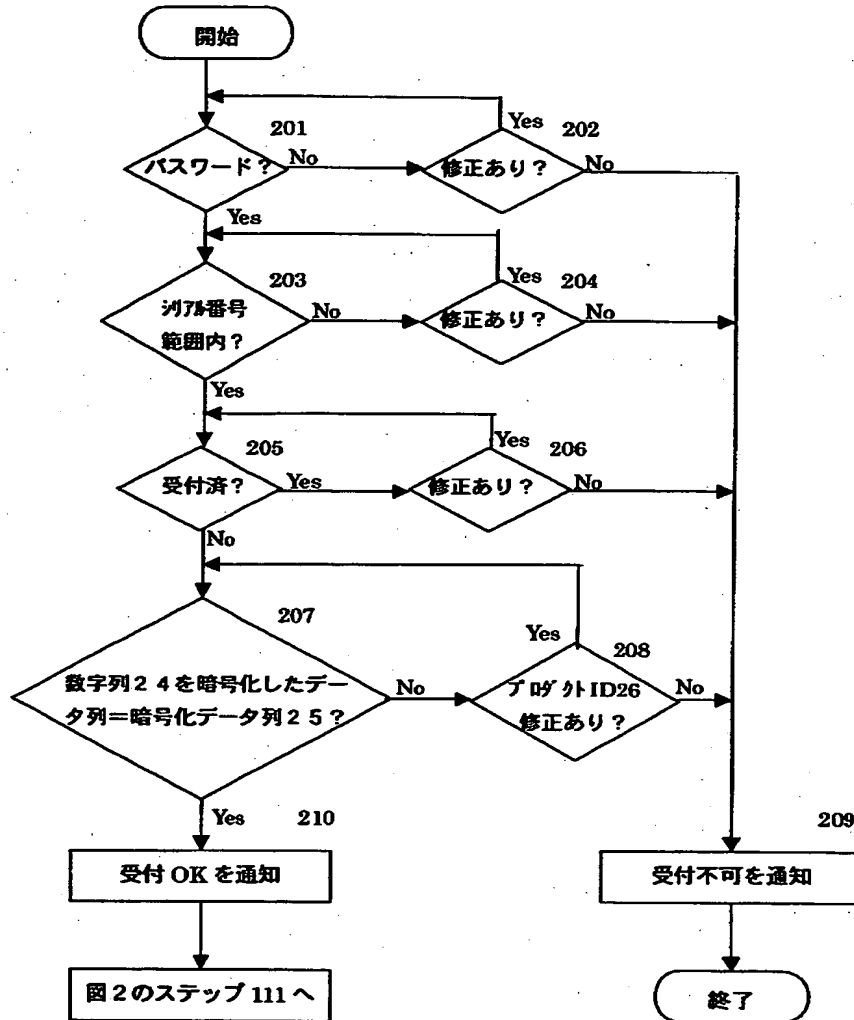
プロダクト ID26

***** - ***** - *****
 ↑ ↑
 製品ごとに異なる数字列 24 暗号化データ 25
 (製造番号 22 と同じでも可) (暗号化)

パスワード

【図 7】

管理サーバ40における認証処理の例



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ユーザにとって実益のある目標を与えて継続的にエクササイズを行わせる健康器具とそのシステムを提供する。

【解決手段】 個々の製品ごとに異なるプロダクトIDが付与されている健康器具を使用して所定回数の運動を行うことによりパスワードが表示される。ユーザは、マイレージバンク会員番号と共に少なくともパスワードとプロダクトIDとをサービス提供会社4に連絡する。サービス提供会社4では、パスワードとプロダクトIDが正しいか否かの認証を管理サーバ40により行い、正しい場合には、マイレージバンク会員番号に対応するマイレージポイントをパスワードに対応するポイント数だけ増加させるよう、航空会社に指示する。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-059852
受付番号	50100304815
書類名	特許願
担当官	金井 邦仁 3072
作成日	平成13年 3月 7日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 3月 5日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000105637]

1. 変更年月日 2000年 1月19日
[変更理由] 住所変更
住 所 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号
氏 名 コナミ株式会社